

秦野市の学習支援

～学びの基盤プロジェクトを中心に～

秦野市教育委員会 教育指導課

おはようございます。ポンジーア。秦野市教育委員会の安藤淳です。
本日は、日本の神奈川県にあります「秦野市」の教育・学習指導についてお話しします。

現在の日本の学校教育のキーワード

- ▶ 主体的・対話的で深い学び
- ▶ 個別最適な学びと協働的な学び
- ▶ GIGAスクール構想 など

秦野市では、教育委員会と学校が
「協働」を合言葉に、これらに取り
組んでいる。

まずは、日本の教育について、現在のキーワードをお伝えします。それは、「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学びと協働的な学び」「GIGAスクール構想」などです。こうしたことが重視される現在の日本の教育の中で、秦野市では、学校と教育委員会が「協働」を合言葉に取組を進めています。

先生のこんな発言は？

「この問題が分かる人？」
「Quem entender essa questão,
por favor levante a mão」



子どもにとってどうか？

1/33

さて、みなさんはこのような教師の発言をどう思われるでしょうか。
教育長からこの発言を改めて考え直してみるようご指摘がありました。
例えば、分かる人と聞かれていつも手を上げられない子はいないでしょうか。
この発言は誰の何のためなのでしょう。どれだけの子どもたちにとって必要な投げかけ
なのでしょう。

「教える」から「学ぶ」へ。

「学びの基盤プロジェクト」とは・・・

2/33

「教える」から「学ぶ」へ。

みなさんはこれを聞いてどう思うでしょうか。

小中学校の教室で、「この問題わかる人？」「ここまでわかった？」などと教師が言っている姿はこれまでの日本では当たり前でした。

でも、それは本当に今求められる学びの姿でしょうか。

平成29年度公示の学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」というキーワードをはじめ、新たな学びの姿が求められています。

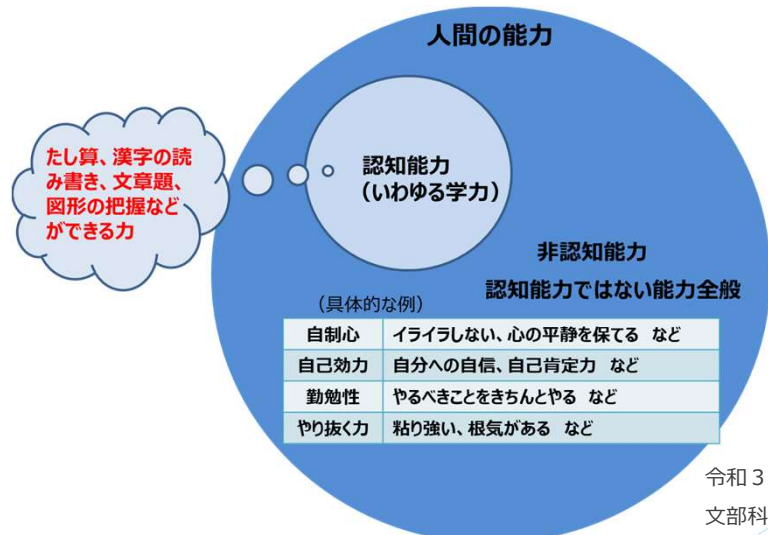
本市では、先生が「教える」授業から、子どもたちが「学ぶ」授業へ、新たな学びのスタイルへの転換が必要であると捉え、学びの基盤プロジェクトと立ち上げました。

「学びの基盤」とは？

3/33

では、学びの基盤とはどのようなものでしょうか。

非認知能力と認知能力



令和3年10月20日

文部科学省 大根田専門官 資料より

4/33

これは、令和3年度10月に文部科学省の専門官をお呼びして開催した研修会の資料の一部です。

人間の能力を大きな円で表現しています。認知能力、いわゆる学力はその中の一部です。その外側には、

認知能力でない能力がたくさんあります。例えば、自制心、自己効力、勤勉性、やり抜く力などです。

非認知能力と認知能力はこのように説明することができます。

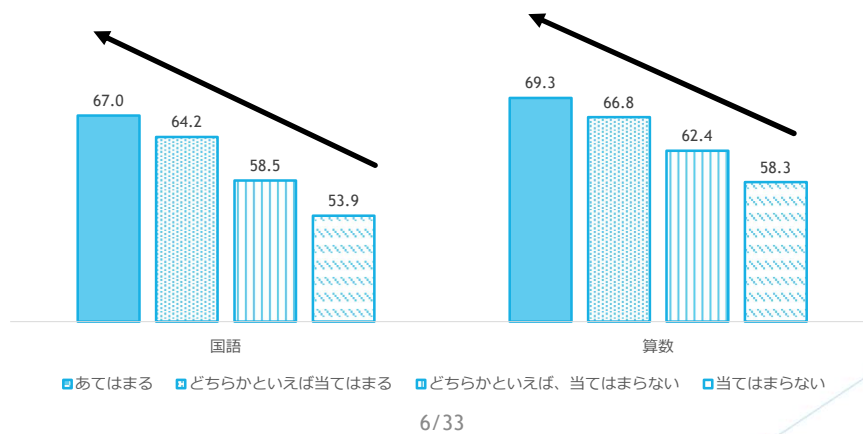
非認知能力と認知能力 ザックリver.



5/33

こちらは私が作成したザックリ バージョンのイメージです。
自制心や勤勉性がなければ学力は定着しないでしょう。
つまり、非認知能力は認知能力を支える力、土台、「学びの基盤」として存在すると考えられます。

Q. 自分には、よいところがあると思いますか。（2019年度全国学調 小学校質問紙調査）



では、本当に非認知能力が学びの基盤となっているのでしょうか。

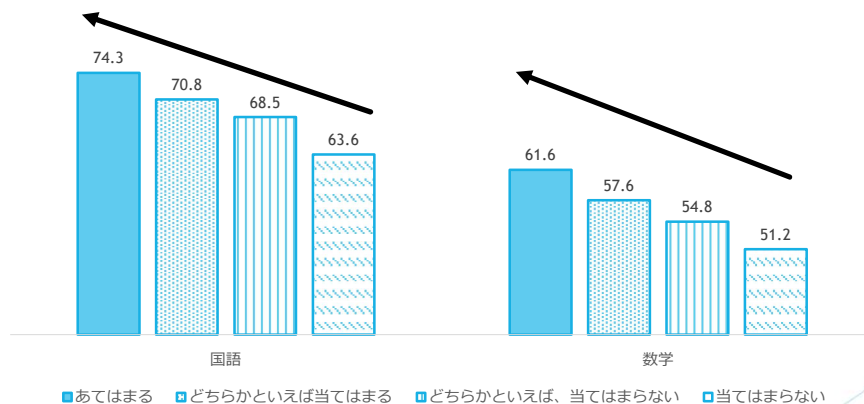
近年、教育にもエビデンスをと言われています。科学的・数的根拠というものです。その一つとして、全国学力・学習状況調査を取り上げます。

これは、2019年の質問紙調査の「自分にはよいところがある」と思っている児童の割合と正答率のクロス集計資料です。

「自分にはよいところがある」に当てはまると答えた児童の国語の正答率は67、0。当てはまらなと答えた児童は53、9で、

13ポイントの差があり、自己肯定感が高い児童ほど学習内容の定着が進んでいることが分かります。算数についても同様の傾向が見られます。

Q. ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。（2019年度全国学調 中学校質問紙調査）

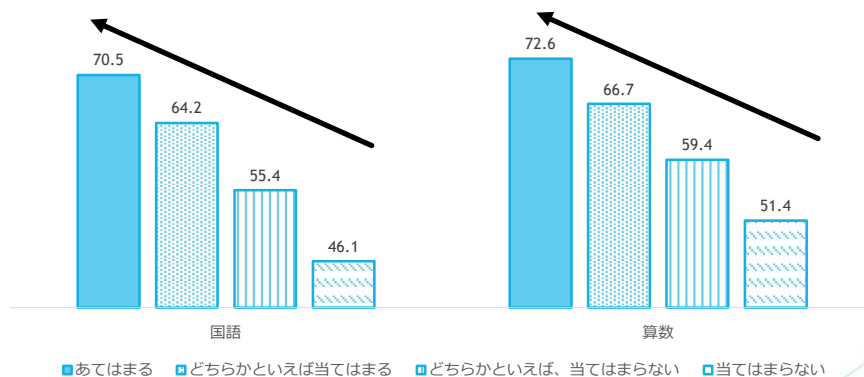


7/33

次に、中学校の調査も見てください。「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」の質問についてです。

いわゆる勤勉性ややり抜く力についてですが、当てはまると答えた生徒と当てはまらないと答えた生徒の平均正答率はやはり10ポイント以上差がありました。

Q. 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。（2019年度全国学調 小学校質問紙調査）



8/33

もう一つ取り上げてみます。もう一度小学校の調査ですが、「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」の質問に当てはまると答えた児童とそうでない児童では、20ポイント以上の差が見られました。課題解決学習、主体的な学習の重要性を示していると言えます。

これらの分析から・・・

▶ 数字にできない

▶ 課題解決学習も含めた

「非認知能力」

「授業改善」

改めて、これらに着目したい！

9/33

これらの分析から、秦野市教育委員会としては、学力向上につながる取組として、教科の枠を越えて、これまでも大切にされてきた、数字にできない「非認知能力」と課題解決学習などの「授業改善」に、改めて着目したいと考えました。

「非認知能力」の本市のとらえ

- ▶ 自制心
- ▶ やり抜く力 など
- +
- ▶ 自己効力感・自己肯定感

『学びを支える力』



10/33

「非認知能力」については、近年様々なところで注目されています。

本市としては、自制心・やり抜く力などに加えて、自己効力感や自己肯定感も含めて、「学びを支える力」として、非認知能力を捉えています。

ただし、非認知能力の捉えやその伸ばし方については、正解があるとは言えませんので、学校の先生方と一緒に考えていきたいと思っています。

学びの基盤プロジェクトとは

複数の自治体で共同実施⇒全国的な広がり
データを根拠に一人ひとりを観て伸ばす

学力の伸び

+

学力を伸ばす要素

継続的に把握できる

11/33

最初に紹介した「学びの基盤プロジェクト」と名付けた取組は、他県で開発された学力・学習状況調査を活用した取組です。本調査は、秦野市を含む複数の自治体で協定を結び、共同実施されています。

調査目的は、データを根拠に一人ひとりの学習状況を観て伸ばすことにあり、学力の「伸び」や学力を「伸ばす要素」について継続的に把握することができます。小学校4年生から中学校3年生まで、6年間継続してデータを見ていきます。

学びのカルテをつくる！

- ▶ 市内小中学校モデル校 2021年は5校、2022年は8校、2023年は15校で独自の学力調査（質問紙含む）を実施（22校中）

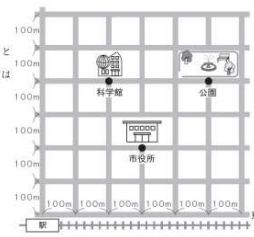
5月 調査実施

9月 結果の送付

6 次の問題に答えましょう。

(1) 次の図は、ある町の絵地図です。

駅をもとにすると、市役所は（東300m、北200m）と表すことができます。同じように駅をもとにすると、科学館はどのように表すことができますか。答えを書きましょう。



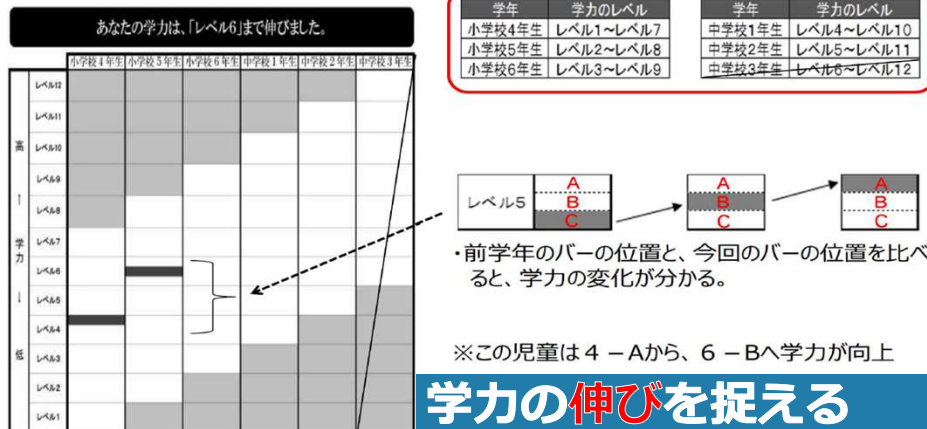
12/33

本市では、学びの基盤プロジェクトの中で、子どもたち一人ひとりに学びのカルテをつくるイメージをしています。

市内には小中学校が22校ありますが、2021年度は市内5校、2022年度は8校、2023年度は15校をモデル校として5月に学力調査を実施しました。

9月には委託業者から結果が送付される流れです。

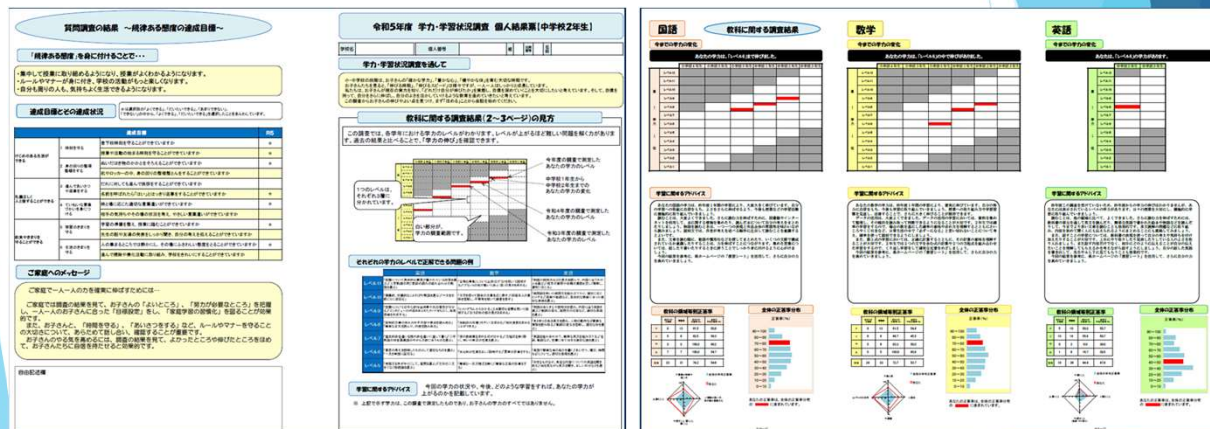
個人結果票



13/33

こちらが結果送付の際に届く個票の一部です。学力レベルを可視化して経年での個の伸びを追うことができます。
学校には、それぞれの子のデータが様々な様式でまとめられて届きます。

保護者・子どもへフィードバック



14/33

こちらが実際の個票です。個の伸びだけでなく、一言アドバイスや非認知能力に関連した質問紙調査の結果も返されます。
小さくて見づらかもしれませんが、一人ひとりにこうした情報が返却されます。

【寄り道】質問調査に答えてみましょう！

とても当てはまる A やや当てはまる B

やや当てはまらない C 当てはまらない D

- 1 自分にはよいところがあると思いますか？
- 2 難しいことでも失敗をおそれずに挑戦していますか？
- 3 自分からはっきりあいさつをすることができますか？
- 4 相手の気持ちを考え、やさしい言葉遣いができますか？

ここでちょっと、子どもたちの気持ちになって、質問調査に答えてみましょう。
お配りしたワークシートの1番上にA～Dを記入してみてください。

1 2 3 4

ありがとうございました。こうした質問をするということは、こうしたことが大切だと考えているということです。

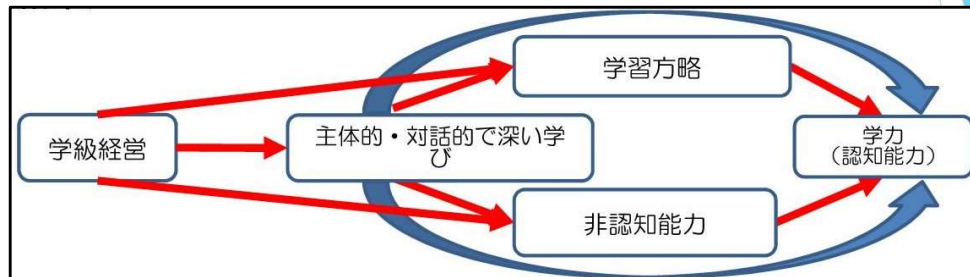
しかし、
調査をすれば学力は伸びるのか？

調査結果をいかに活用するか！

15/33

しかし、調査をすれば学力が伸びるのでしょうか。調査をすることが目的ではありません。
それでは子どものためになりません。
一定の労力をかけて調査したならば、その調査結果を活用することが重要です。

埼玉県と連携した分析



- ①ベースは学級経営。
- ②安心できる学習環境で、主体的に学ぶ。
- ③学習の仕方や非認知能力が育成される。
- ④結果的に学力につながる。

16/33

これは、調査を積み重ねてきた結果を大学の研究室と共同で分析したものの一部です。右側に示された「学力」につながるものとして、これまでも日本で大切にされてきた「学級経営」が基盤となること、そこから「主体的・対話的で深い学び」や「学習方略」「非認知能力」につながるということを図式化したものです。先生方の経験則で重要だと思われていたものが、データ分析の上でも改めて重要であることが見えてきました。

活用の想定

- 伸びた子を認める・褒める。
- 他の資料と関連させて。（定期テスト・面談）
- ケース検討の資料として。
 - ・学力が高くても自己肯定感が低い。
 - ・意欲は高いが、学力が伸び悩む。
 - ・伸びた子にどんな支援をしたか。
- 好事例を広げる。

17/33

では、どう活用するか。

本市の活用の例です。

先生方には、まず伸びた子を認める・褒める材料にしてほしいと思っています。個の伸びを認めます。

また、他の資料と関連させることで価値が上がることもあると思います。

さらに、ケース検討をすることで、今後に生かすことができると考えています。学力が高くても自己肯定感が低い子、意欲はあるが学力が伸び悩む子、伸びた子に対する先生の具体的な指導などを検討することで、学校に新たな知見がもたらされます。

そして、子どもたちの学びや先生方の指導の好事例を見つけ、それを校内で、そして市内で広げていくことが重要だと思います。

学びのカルテを生かす！

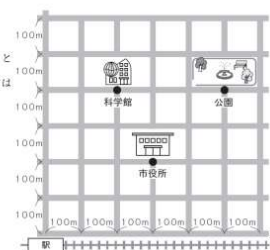
▶ 市内小中学校モデル校で独自の学力調査（質問紙含む）を実施

5月 調査実施
8月 結果の送付
11月 活用検討会

6 次の問題に答えましょう。

(1) 次の図は、ある町の絵地図です。

駅前をもとにすると、市役所は（東300m、北200m）と表すことができます。同じように駅前をもとにすると、科学館はどのように表すことができますか。答えを書きましょう。



18/33

そこで、結果の送付のあとに、各学校では、当該学年や旧担任、管理職などが参加した活用検討会を開いていただいています。

活用検討会の様子

〇〇さんのここが伸びたのは、▲▲したからかな

担当者（教務）を中心に実施学年ごとに検討

〇〇先生は何をしたから
▲▲を伸ばしたのだろう

前担任も参加して取組のふり返り

19/33

昨年度の活用検討会の様子をご紹介します。「●●さんのココが気になる」「案外△△さんは非認知能力の項目で肯定的だ」などの発見がありました。2年目以降の学校・学年については、個の伸びを見ることができるので、より効果的な検討会ができます。各学校で実施していただきますが、必要に応じて要請をいただければ、指導主事も同席させていただいています。

分析の仕方（１）

学力レベル			「学び方」「学びに向かう姿勢」					学びの基盤		
	国語	算数・数学	R5結果							
	R5レベル	R5レベル	主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略					非認知能力	
				柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	自制心
学校平均	5-B	4-B	3.8	3.4	3.4	3.4	3.7	3.9	3.5	3.4
市町村平均	5-B	4-B	3.8	3.4	3.4	3.3	3.7	3.8	3.5	3.6
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Aさん	4-A	2-A	4.6	2.0	4.5	3.3	2.0	3.8	4.5	2.4
Bさん	4-A	6-C	3.8	3.3	3.5	3.3	4.3	3.5	3.6	3.6
Cさん	6-B	3-C	2.5	2.0	1.8	2.5	2.3	3.8	2.3	2.5
Dさん	5-C	5-B	4.6	4.3	4.3	3.3	4.0	3.8	3.8	3.4
Eさん	1-B	2-C	3.8	3.3	4.5	5.0	3.3	1.8	2.6	2.3

20/33

では、どのように分析をしているかです。学校には、このように学力のレベルや学び方と非認知能力のデータが一覧になったものが業者から送られてくることになっています。

分析の仕方（２）

	国語	算数・数学	R5結果							
	R5レベル	R5レベル	主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略					非認知能力	
				柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	自制心
学校平均	5-B	4-B	3.8	3.4	3.4	3.4	3.7	3.9	3.5	3.4
市町村平均	5-B	4-B	3.8	3.4	3.4	3.3	3.7	3.8	3.5	3.6
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Aさん	4-A	2-A	4.6	2.0	4.5	3.3	2.0	3.8	4.5	2.4
Bさん	4-A	6-C	3.8	3.3	3.5	3.3	4.3	3.5	3.6	3.6
Cさん	6-C	7-C	4.6	5.0	4.8	4.8	5.0	4.0	5.0	4.8
Dさん	4-B	3-C	3.8	3.8	2.8	3.8	2.8	4.8	3.8	1.8
Eさん	1-B	2-C	3.8	3.3	4.5	5.0	3.3	1.8	2.6	2.3

21/33

先程のデータをまずは各学校で確認し、目立った数値のところを色付けしながら、一人ひとりを見ていきます。初めて受験した子たちは前回と比べたりはできませんが、顕著な部分を見るだけでも今後の指導の参考となります。

分析の仕方（3）

	国語			算数・数学			R4→R5(変化量)							
	R5レベル	昨年度からの学力の伸び	R4レベル	R5レベル	昨年度からの学力の伸び	R4レベル	主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略					非認知能力	
								柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感(参考値)	向社会性
学校平均	6-A	3	5-A	5-A	0	5-A	-0.4	-0.1	-0.1	0.0	0.0	-0.2	0.0	0.0
市町村平均	7-C	3	6-C	6-C	1	5-A	-0.4	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.2	0.0	-0.2
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Aさん	6-A	3	5-A	5-C	-2	5-A	-0.1	-1.0	0.0	1.3	0.3	0.0	0.1	-1.0
Bさん	7-B	7	5-C	5-C	-1	5-B	-0.2	0.0	0.0	-0.3	0.0	0.0	0.0	-0.4
Cさん	6-B	4	5-C	4-A	0	4-A	1.1	0.0	-0.5	-1.8	-0.3	0.3	-0.2	-0.2
Dさん	3-C	-3	4-C	3-C	1	2-A	-1.5	-3.0	-1.8	-3.8	-3.0	0.0	-0.5	1.2
Eさん	7-A	-1	8-C	6-A	-4	8-C	-2.1	0.0	-0.8	0.0	0.0	-1.8	0.6	-3.4

22/33

そしてこちらは、2年目以降の学校・学年に返される結果の一覧です。先程と比べて欄が増えていて、前年と比べた変化量が示されています。

分析の仕方（４）

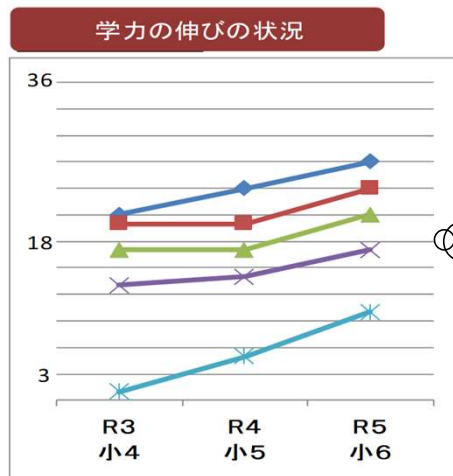
	国語			算数・数学			R4→R5 (変化量)							
	R5レベル	昨年度からの学力の伸び	R4レベル	R5レベル	昨年度からの学力の伸び	R4レベル	主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略					非認知能力	
								柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感(学習意欲)	向社会的性
学校平均	6-A	3	5-A	5-A	0	5-A	-0.4	-0.1	-0.1	0.0	0.0	-0.2	0.0	0.0
市町村平均	7-C	3	6-C	6-C	1	5-A	-0.4	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.2	0.0	-0.2
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Aさん	6-A	3	5-A	5-C	-2	5-A	-0.1	-1.0	0.0	1.3	0.3	0.0	0.1	-1.0
Bさん	7-B	7	5-C	5-C	-1	5-B	-0.2	0.0	0.0	-0.3	0.0	0.0	0.0	-0.4
Cさん	6-B	4	5-C	4-A	0	4-A	1.1	0.0	-0.5	-1.8	-0.3	0.3	-0.2	-0.2
Dさん	3-C	-3	4-C	3-C	1	2-A	-1.5	-3.0	-1.8	-3.8	-3.0	0.0	-0.5	1.2
Eさん	7-A	-1	8-C	6-A	-4	8-C	-2.1	0.0	-0.8	0.0	0.0	-1.8	0.6	-3.4

23/33

先程と同じように色付けをして分析をしていきますが、今度は変化・個の伸びが見られる部分などに着目していきます。

これらのデータを見ながら、先生方が実際の子どもたちの様子を語り合いながら、分析検討会を行います。

分析の仕方（5）



小5から小6にかけて、
どの層も伸びているな。
前年度から継続してきた
〇〇の効果かな。
上と下の層は、毎年伸ば
しているな。

24/33

また、学力レベルごとの経年変化も追うことができます。例えば、「今年の6年生は、4年生の頃から学力の下位層が特に伸びている」「中間層はさほど伸びていない」など、学校が変化を見てとれます。非認知能力にも着目しながら、なぜこの学年はこうした変化が見られたのかと考えていきます。

学びのカルテから好事例を共有！

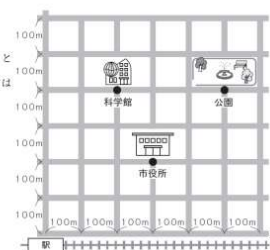
▶ 市内小中学校モデル校で独自の学力調査（質問紙含む）を実施

5月 調査実施
8月 結果の送付
11月 活用検討会
好事例共有

6 次の問題に答えましょう。

(1) 次の図は、ある町の絵地図です。

駅前をもとにすると、市役所は（東300m、北200m）と表すことができます。同じように駅前をもとにすると、科学館はどのように表すことができますか。答えを書きましょう。



25/33

さらに、こうした分析・活用の検討会で得たことを、市内で共有することが大切です。そこで、市内の先生方でよい事例が見られたことを共有する機会を教育委員会が設けています。

2022年度は事例共有の研修会を実施 (2023. 2. 27)

- ▶ 授業公開と「学びの軸
(大切にしていること)」の発表
南が丘小学校での授業公開
- ▶ グループ協議
- ▶ 文部科学省アドバイザーより助言

26/33

昨年度の実施です。好事例を共有するための研修会を実施しました。市内の南が丘小学校を会場に、好事例として学力が高まり、非認知能力の数字もよかったクラスの先生の授業公開、そしてグループ協議を行いました。国からも注目をいただいて、文部科学省からも4名おいでいただき、アドバイスを受けました。

2023年度は事例共有の パネルディスカッションを実施 (2023. 11. 6)

- ▶ 渋沢小・中学校の先生方
- ▶ 授業改善の事例
「主体的」「個別最適」な学び
- ▶ 文部科学省アドバイザーより助言

27/33

今年度は、事例の共有をパネルディスカッションの形式で行いました。市内の渋沢小・中学校の先生方の結果が良かったので、2名の先生方にどうして学力が伸びたり非認知能力が高まったりしているのか、自身で考えていることや大切にしていることを市内の先生方に発表していただきました。この会にも文部科学省の方をお招きして、アドバイスをいただきました。

これまでのオーソドックスな授業スタイル

その会では、好事例を持った先生方が授業の工夫をしていることが分かりました。

例えば、日本でのオーソドックスな授業のスタイルです。きちんと座って先生の話聞く。

このような学びの姿はとても大切ですが、一方で、このような「聞くだけ」のスタイルでは身につかない力もあるはずです。

先生が「教える」から、子どもが「学ぶ」へシフトしていくことが重要だと考えました。

28/33

その会では、好事例を持った先生方が授業の工夫をしていることが分かりました。

例えば、この写真は日本でのオーソドックスな授業のスタイルです。きちんと座って先生の話聞く。

このような学びの姿はとても大切ですが、一方で、このような「聞くだけ」のスタイルでは身につかない力もあるはずです。

先生が「教える」から、子どもが「学ぶ」へシフトしていくことが重要だと考えました。

渋谷中学校 国語の取組

先程のパネルディスカッションで発表した先生の授業です。
中学校の国語の授業ですが、体育館（武道場）で授業をしています。
これは、物語の中で、戦いの最中に80m先の的を弓矢でいる場面を模しているところ
です。
戦いの最中でも、敵味方関わらず盛り上がったという情景を、実際に感じ取ってほし
くて実施したものです。

授業では紙飛行機を10メートル先の的に当てて盛り上がっていましたが、これを感じ
てから物語を改めて読むことで、その時の情景がより鮮明になるという取組です。

先程のパネルディスカッションで発表した先生の授業です。中学校の国語の授業ですが、体育館（武道場）で授業をしています。これは、物語の中で、戦いの最中に80m先の的を弓矢でいる場面を模しているところ。戦いの最中でも、敵味方関わらず盛り上がったという情景を、実際に感じ取ってほしくて実施したものです。では、動画をご覧ください。授業では紙飛行機を10メートル先の的に当てて盛り上がっていましたが、これを感じてから物語を改めて読むことで、その時の情景がより鮮明になるという取組です。

渋谷小学校 算数の取組

もう一つ、こちらは同じ地区の小学校の取組です。

こちらは、先ほどご紹介したオーソドックスな授業スタイル、一斉に前を見て先生の話聞くのとは違います。
個人で取り組む子、グループで学び合う子、教室の外の廊下で学習する子などがいたと思います。

子どもたちが場所や問題、授業の進度を自由に選んで算数の授業を進めています。すべての授業をこうしているわけではありませんが、子どもたちが主体的に、自分で考えて学ぶというスタイルの授業を実施しています。

もう一つ、こちらは同じ地区の小学校の取組です。動画をご覧ください。

こちらは、先ほどご紹介したオーソドックスな授業スタイル、一斉に前を見て先生の話聞くのとは違います。

個人で取り組む子、グループで学び合う子、教室の外の廊下で学習する子などがいたと思います。

子どもたちが場所や問題、授業の進度を自由に選んで算数の授業を進めています。すべての授業をこうしているわけではありませんが、子どもたちが主体的に、自分で考えて学ぶというスタイルの授業を実施しています。

学び続ける教職員・協働する教育委員会

このように、秦野市では非認知能力に着目しながら、子どもたちが積極性や粘り強さを発揮し、主体的・意欲的に学ぶにはどうしたらよいか、授業スタイルの転換を目指して工夫をしています。

そしてそのために、先生方も主体的・意欲的に学んでいます。
校内での先生方の学び合い・主体的な研修会の一場面です。

また、教育委員会も学校との距離を縮めながら取組を進めています。
昨年私が自作のプリントを持っていき、市内の小学校で授業をした際のもので、先生方と子どもたちに、今大切だと考えている「学び」を直接届けてきました。

学校と教育委員会が一体となって授業の工夫・改善に取り組んでいます。

31/33

このように、秦野市では非認知能力に着目しながら、子どもたちが積極性や粘り強さを発揮し、主体的・意欲的に学ぶにはどうしたらよいか、授業スタイルの転換を目指して工夫をしています。

そしてそのために、先生方も主体的・意欲的に学んでいます。左の写真は校内での先生方の学び合い・主体的な研修会の一場面です。

また、教育委員会も学校との距離を縮めながら取組を進めています。右の写真は昨年私が自作のプリントを持っていき、市内の小学校で授業をした際のもので、先生方と子どもたちに、今大切だと考えている「学び」を直接届けてきました。学校と教育委員会が一体となって授業の工夫・改善に取り組んでいます。

最新情報！

▶ 「非認知能力育成プログラム」 動画プログラムを使った授業



32/33

現在、2024年としては、新たに非認知能力を育成するために、動画コンテンツを活用したプログラムを試験的に導入し始めました。モデル校の小学校3・4年生の先生方に、動画コンテンツと指導案をお渡しし、継続的なプログラムを授業で実践してもらっています。こうした新たなチャレンジにも積極的に取り組んでいます。

本市で、これまでも、これからも大切に
するキーワード

「教育委員会は学校の後方支援部隊」

「協働」

「子どもファースト」

⇒子どもたち「次の学びに向かう力」

⇒先生方 「授業改善」 「授業改革」

33/33

秦野市の新たなプロジェクトについて説明してきましたが、本市が大切にしていることはこれまでもこれからも変わっていません。

「教育委員会は学校の後方支援部隊」であること、学校と「協働」して学力向上や授業改善に取り組むこと、子どものためにという視点「子どもファースト」を大切にしていきます。そして、子どもたちの「次の学びに向かう力」と、先生方の「授業改善」「授業改革」を後押ししていきます。

「秦野で学び 世界を知り 未来を創る はだのっ子」

ありがとうございました

33/33

以上です。ありがとうございました。

それでは、ここから休憩に入ります。〇〇分後に再開します。